

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.211

2020年2月19日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-10-8

学校現場の声を生かした改造・改修を！ 学校事務実践講座

朝来市の小学校で、学校事務実践講座を開催しました。学校事務職員の標準職務に示されている「学校施設等環境を整備、維持するための領域」について、実際に学校施設・設備を見学し、維持管理等施設に関する知識の習得と学校事務職員としてのかかわり方を考えました。

朝来市では、校舎の大規模改造工事が3か年(①建物調査→②詳細設計→③改修工事)で計画され、順次すすめられています。また、本年度は市内全小学校に大型テレビ・児童用タブレット・教師用タブレット等ICT機器の設置がすすめられています。

午前の実践発表では、大規模改造工事を通して施設・設備へのかかわり、その中でも特に備品の選定や引越し作業等についての経緯や、苦労した点について話を聞きました。学校事務職員として、校舎の大規模改造に参画するにあたっては、積極的に現場の教職員の声を取り入れ、すべての教職員のかかわりのもとで準備をすすめてきたそうです。特に備え付けの棚や備品等の選定にあたっては、異動等もある中、今在籍している教職員の意向を尊重し、設計段階からの計画を見直し、可能な範囲で選定し直されたそうです。



学校事務職員として、校舎改造工事に必要な力としては、「想像力・コミュニケーション力・判断力・情報収集力・計画、提案力」であると報告されました。参加者からは「学校事務職員としての役割や視点などをとてもわかりやすく説明されたので、大変勉強になった」等の感想がありました。

施設見学を終えた後、参加者は4つのグループに分かれて、班別協議をおこないました。「子どもたちにとって安全で快適な学校生活をめざして」を主な討議の柱とし、自分たちの勤務校と比べながら意見を交流しました。



参加者からは、「自分では気づかなかった視点が交流することで見えてきた。細かなところまで見たり、意識したりすることが大事だと思った」

「市町や経験年数の違いによる様々な意見を聞くことができ、大変有意義であった。自校の設備管理に生かしたい」等の感想がありました。協力研究所員からは、「校舎の改造・改修にあたっては、行政主導で一方向的にすすめられがちではあるが、本校のとりくみは、現場の教職

員の声を生かした意義ある実践発表であった」「地方自治体では、人口減に伴い、公共施設を効率的にマネジメントしていこうという動きがあり、学校もその対象になってくる。統廃合の問題も含め、今後の動きを注視していく必要がある」とまとめられました。

最後は、標準職務通知の学校施設等環境を整備、推進するための領域について、さらに積極的に実践をすすめていくことを確認し、実践講座を終えました。